

討論集会 スナップ



▲大野関西地本委員長の講演



春闘討論集会まとめ

1. 支部要求額を2万円以上とする。上部機関に反映させていきます。
2. 消費税増税により労働者の生活はますます疲弊しています。生活向上のため大幅な賃上げを勝ち取ります。
3. 闘う労働組合の必要性がますます高まって来ています。活動体制や財政状況もふまえ、さらなる組織強化・拡大を最重要課題として組織をあげて取り組みます。
4. 現地闘争を含め、現在、3件の労働委員会や裁判を闘っています。今後の労使関係も視野に入れ組織攻撃にたいしては徹底的に闘います。
5. 国家権力（警察・司法）による連帯労組に対する弾圧に対し支援の輪が各地で広がってきています。一方では、労働三権が犯罪として刑事公判が進んでいます。私たちは権利維持のために反弾圧実行委員会を中心に引き続き組織をあげて闘います。
6. 労働者にとって不利益な「働き方改革関連法」反対、人材確保の名のもと、制度の整っていない外国人労働者の受け入れ反対、辺野古新基地建設反対、原子力政策に反対し再生可能エネルギー、自然エネルギーの転換を求めるとともに社会保障制度の充実に向け闘います。
7. 国家安全保障会議（NSC）においてホルムズ海峡に「積極的平和主義」という詭弁のもと、防衛省設置法の（調査研究）の名目でイージス型護衛艦や哨戒機を派遣し平和憲法をないがしろにする戦争する国づくりに断固反対します。
8. 11月に実施の大阪都構想「政令指定都市の大阪市を廃止して四つの特別区に分割・格下げ」には反対の立場で積極的にたたかいます。万博やIRは我々の職域や交通網に大きく影響を及ぼします。負の要素を追及し補償も視野に入れて取り組みます。
9. 衆議院解散総選挙の可能性が濃くなって来ました。政治に目を向け、我々の要求や政策方針が一致する政党並びに候補者を推薦し積極的に闘います。
10. 支部統一要求は、統一協定の到達闘争とします。
11. 中央行動費と組織拡大費用も含め春闘カンパを取り組みます。

以上

全港湾第41回中央委員会

20春闘に力を結集させよう!

1月30日(木)、31日(金)の両日、シーバレス日港福において、全港湾第41回中央委員会が、中央執行委員19名、中央委員46名、傍聴88名、来賓1名、総勢154名の参加で開催された。

冒頭、大野中央副委員長の開会のあいさつの後、千頭和議長（東海）谷口議長（関西）を選出し中央委員会がスタートした。



真島執行委員長のあいさつでは、国内外の情勢の話から始まり全国港湾での立場の説明、全国港湾での役割の必要性を訴えられた。

来賓あいさつでは、糸谷全国港湾委員長から全国港湾を維持するためにも全港湾の主導を持った立ち位置の重要性を強く訴えられた。

その後、諸見書記次長から第1議題「2019年秋年末闘争の経過と総括（案）」の提案、引き続き第

2議案「2020年春闘方針（案）」の提案があり質疑が始まった。

第1議題の質疑ではほとんどが昨年の港湾ストライキ時のスト破りに対しての曖昧な総括、制度政策闘争における上層部だけの判断に対する疑問、全国港湾での全港湾の主導的立ち位置の必要性、また、極論として距離を置く覚悟を持った今まで以上のイニシアチブを取るための積極的な議論の重要性が質疑された。

しかし、これらの答弁には質問者、また、参加者全体を納得させるまでの答弁には至らなかったが、現段階でのそれ以上の答弁を引き出すのは困難である空気感の中、第1議案は承認された。



第2議題の質疑は2日間にわたり行われた。質疑内容は、地方港の現状に於ける一定の自動化の必

要性を求められたが、その反面、名古屋港では我々の職域、賃金低下に繋がる恐れからの反対意見があり、港湾ストライキなど地方港と6大港の状況整理の難しさが浮き彫りになった。

また、産別最低賃金の闘い方は中央労働委員会闘争、17春闘で確認済みの168,920円での協定化などの多様な意見、労災企業補償、全日建関支支部に見える集団的労使関係を持つ組合の弾圧に対抗するには選挙闘争が必要などの多くの質疑がされた。その後、各地方本部春闘まとめが報告され、中央本部まとめ（総括答弁）として、「要求額は20,000円、中央労働委員会への救済を全国港湾中央委員会に提案する」と報告された。

一方、その他の質疑は何れの答弁もしっかりとした答弁にはならなかったが、翌週の全国港湾中央委員会に反映すると共に、参加者へも活発な質疑を求められ、「よっぽどの事がない限り、言い訳はしない」との委員長からの発言を受け第2議案は承認された。

最後に、真島執行委員長を中心に「20春闘勝利のため全港湾団結して頑張ろう！」を唱和して散会した。（書記長 小林）

港湾労働者のドキュメンタリー放送がありました。

（NHK BS 1月17日放送・新日本風土記『大阪ベイブルース』）
◇大阪の港は、物流や工業の要として大阪の発展を支えてきたベイエリアで、水深の浅い港では、舢（はしけ）と呼ばれる船がいまも活躍している◇沖縄から出稼ぎに来た人びとが肩寄せあって暮らす海辺の大正区の人たち◇親元を離れて施設で暮らす子どもたちに、1年に1度の餅つき大会に港で働く男たちが集まる。海辺に辿り着き、たくましく生きる人びとの物語。（NHK・番組内容より抜粋）

